期の見通しを。 今期上期の業績と通

ている ら免震装置に関しては25 らっている。こうした状況 免震装置などを手がける を更新できた。ただ、25 度の計画達成が厳しくな 作は予算が執行できなく **5込んだ。人手不足や資** 度に入り、橋梁や建築向 響。特に橋梁などの公共 高騰による工事の停滞が 木建築機材事業の需要が 25年3月期) 業績は最高 前期の2024年度

## 

や中心とした素形材事業は

KX でサービスパ

民間向けが主体の鋳物

較的堅調だ。顧客の産業

活発。当社では低膨張材

ロストワックス』の需要 ニレジスト』や精密鋳造 導体関連の需要は引き続 野によって濃淡はあるが



ップの需給が大きな課題に

「中長期的には鉄スクラ

材が補っている。最終年度

装置の需要落ち込みを素形

ぼ予定通り。足元では免標

全体として見れば、 間年度。進捗状況は。

となる26年度の土木建築需

自動化が課題となるが、そ きな課題。当然、省力化や た。人材の維持・確保は大 材確保は一段と難しかっ れも一朝一夕にできるもの ではない」 に今夏の酷暑で鋳物業の人

だ

期経営計画」は25年度が

3カ年の「第5次中

上級スクラップの調達が難 なると思う。鋳物で使用す しくなる可能性はある。資 各社が電炉化を進める中、 る鉄スクラップは、いわゆ る上級品種。高炉メーカー 要の動向や、半導体関連の 活況がいつまで続くかとい った点が焦点になる」

の協業検討、技

の成果は。 ンスフォーメーション -KX(カワキン・トラ

でいる。また、 資は徐々に進ん 昨年10月に橋梁 生産効率化の投 「省力化など

本鋳造と

**共成建設をグループ化、初の建設業** 

設業、共成建設 の施工を行う建

更新は難しい状況だ」 車関連の改善などに期待する。しかし、人件費の高騰 を迎えた格好。下期は自動 比べると、いわば、踊り場、 るが、今期通期で最高益の 素形材事業を取り巻 業規制の強化も現場の士気 や人材採用の難しさは悪化 はいったん落ち着きつつあ を高める上での足かせ。 「ここ数年続いた原価高 途をたどっている。残 すれば、日本産の上級スク プ化した。グループ会社に が鉄スクラップ輸出を規制 あり得る。鋳物用スクラッ ラップがひっ迫することも 源ナショナリズムから米国 は将来的に大きな懸念材料 プを巡る需給や価格の変化 建設業が入ったのは初め ックの子会社としてグルー さいたま市)を川金コアテ 点検や交換提案を行うサー かし、橋梁用支承の保守・ て。橋の施工ノウハウを活 (本社・埼玉県

梁用支承と 形 材 分 野

業績が続いた直近3カ年に 皮上期の業績は厳しい。好

て動きが停滞している」 ジトランプ関税の影響もあ ?好調だ。一方、自動車関連

当社全体で見れば25年

考えている 造るだけでなく、付加価値 ビスにつなげたい。モノを 業を広げることが大切だと を高めるサービス分野に事 関連向けの鋳造設備の増 る。素形材事業では半導体 な設備投資を計画してい 新など。土木建築機材事業 異形形鋼の圧延設備更

域で事業を行う両社は直面 課題に対し、ともに何かで る。個社では解決できない 当社と似ている。当然、競 梁用支承という事業内容で する課題や悩みが共通す 合会社ではあるが、同じ領 討について。 日本鋳造は、鋳造と橋 -日本鋳造との協業検 製品のラインアップを拡充 では川金コアテックの工場 高騰の影響もあり、総額で すべく開発を進める。資材 製品に挑戦する。建築向け 去にない大型投資となる」 払張と設備導入で、新たな 海外事業の現状と展

業の『素形材』と、『橋梁 めた。具体的には、鋳造事 きないか。協業の検討を始 らかの協業が開始できれば ている。来年度初めには何 社で意見交換をスタートし キンググループを設置。両 用支承』のそれぞれでワー なげていきたい」 は互いの優れた技術を学び と考えている。当社として 合い、技術力の底上げにつ ックスを。 -グループ各社のトピ きかについて検討を始めて はより一層、高まっている。 の世界最適がいかにあるべ いわゆるカントリーリスク グループ全体で生産・販売 当社グループは中国、米国 年7月 グローバル戦略を立て直す ともに拠点を有しており、 时期に来ている。このため、 金ホールディングスに今 米中対立が影を落とし ル戦略部』を新設した。 、新たな部署『グロ 智矢

グループ各社で積極的

小堀